

# 牛群検定を活用した乳質向上に対する取組

指導・担当機関 宮城県牛群検定普及推進協議会

(連絡先(事務局): 宮城県農林水産部畜産課 生産振興班)

電話: 022(211)2853

## 指導農家の概要

宮城県 全域  
酪農家9戸(乳用牛700頭)

## 指導の経緯

- ・平成15年度に設立した宮城県牛群検定普及推進協議会が主体となり、  
個体毎の体細胞数が把握できる牛群検定成績を活用し、乳質の改善を  
目的とした巡回指導を行った。
- ・年2回の指導チームの巡回時に牛群検定を基にした個体データの分析を搾乳方法や飼養管理状況の  
改善に関する助言を行い、その後の取り組みについては構成機関が随時支援した。

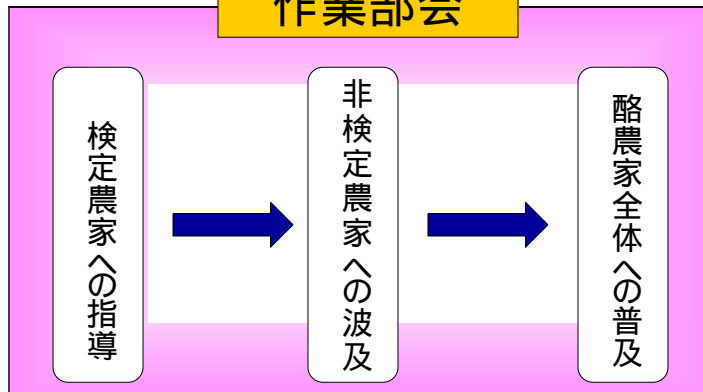
## 宮城県牛群検定普及推進協議会

- ・みやぎの酪農農業協同組合
- ・宮城県酪農農業協同組合
- ・全国農業協同組合連合会宮城県本部
- ・宮城県ホルスタイン協会
- ・宮城県畜産協会
- ・宮城県農業共済組合連合会
- ・宮城県家畜人工授精師協会
- ・仙北乳用牛群改良推進組合
- ・大崎石巻乳用牛群改良組合
- ・県南乳用牛群改良組合
- ・宮城県ホルスタイン同志会
- ・東北大学
- ・宮城県

構成13団体



## 作業部会



## 指導の内容

# 乳房炎の原因特定と飼養管理の改善

- ・ 個別農家毎に、乳房炎の原因の特定と飼養環境及び搾乳方法の改善を

複合的に実施した。

罹患牛の特定のための細菌検査と治療・淘汰の実施

飼養環境の改善。牛床をできる限り清潔で乾燥させ、牛体を汚さない管理方法を指導

正しい搾乳方法の徹底。乳房内に細菌を侵入させないための乳頭清拭とミルクカーの脱着

搾乳機械の適正な管理。ライナーゴム交換や真空圧の調整等で乳頭に優しい搾乳の実施

ストレスからの解放による抵抗性強化。牛の栄養状態や暑熱対策などの飼養環境の改善

傷んだ乳腺を効果的に治療するため乾乳期の治療の徹底

- ・ その他に伝染性乳房炎に対しては、以下の取り組みを推進した。

感染牛を隔離して特定の場所へ留置。 感染牛を搾乳するユニットを別に設定。 搾乳は、正常牛から開始し、感染牛は最後に搾乳。

## 指導の効果

### 巡回指導

・ 定期的な巡回指導により、各農家毎の乳房炎発生原因や体細胞数変動が把握でき、適切な対応を実施したことで乳房炎の予防による乳質の向上と収益性の改善が図られた。

- ・ 主な指導対象農家概要は以下のとおり

農家	原因	対策
A	搾乳機器の点検不備	搾乳機器の定期点検・整備の実施、淘汰の実施
B	定期的な削蹄の未実施 別搾りの未実施	搾乳の立会及び搾乳機器の点検の実施、定期繁殖検診及び淘汰の実施
C	ミルクカー離脱設定不備	搾乳機器の調整及び資材の見直し、初任牛管理改善による乳房炎防止
D	規模拡大による管理労力不足	細菌検査による摘発淘汰、効率的な飼養管理による環境改善

## 乳中体細胞数低減のチェックポイント

- ・ 定期的な巡回指導と同時に優良な農家における搾乳・飼養管理の実態調査を行い、県内酪農家に対する指導方法を検討し、巡回指導の成果をまとめた「乳中体細胞数低減のチェックポイント」を作成した。

### 乳中体細胞数低減のチェックポイント(抜粋)

宮城県牛群検定  
普及推進協議会

#### 1. 正しい搾乳及び搾乳機器の定期点検

(1) 正しい搾乳手順(マニュアルの統一、基本に忠実に！)

- 1) カート等を使って必要な資材を整理(ディッピング液・カップ、ペーパータオル、ストリップカップ等)
- 2) 搾乳順の確認(乳房炎発症牛、慢性乳房炎牛は最後)
- 3) 前搾り: ストリップカップによる異常乳の確認
- 4) タオルで乳頭清拭及びプレディッピング(30秒放置) 注) タオルは消毒液で濡らす
- 5) 乳頭の乾燥(乾燥紙タオル)
- 6) ユニットの装着
- 7) 搾乳
- 8) ポストディッピング

以下のポイントは巡回により得られた成果あるいは、実施が必要な事項です。

ポイント1 前搾りからティートカップ装着まで60～90秒以内で行うことで速やかに搾乳でき乳房炎の発生予防にもつながる。

ポイント2 乳頭清拭の目的 清潔にすることで牛乳への細菌やゴミの混入防止。 ミルカー搾乳時の逆流現象による乳房内細菌侵入防止。 搾乳刺激による乳の降下促進及び良好な乳頭先端の維持(乳房炎防止にもつながり体細胞数低減のポイント)。